

登下校の見守り活動に地域の目を！

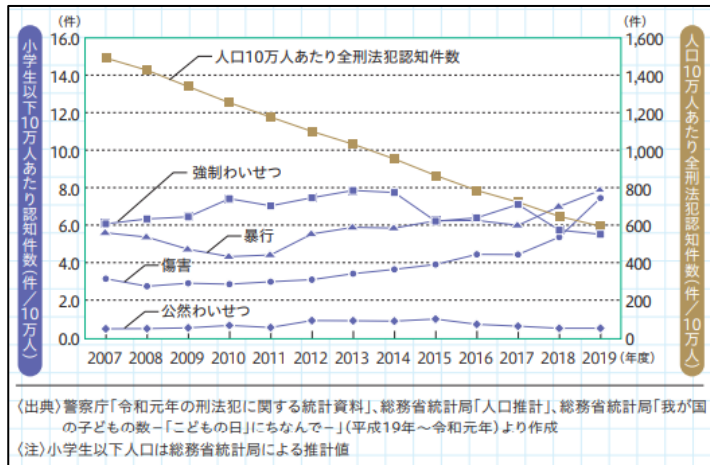
〈 やってみよう！登下校見守り活動ハンドブック 〉

文部科学省は、令和2年度「地域における通学路の安全確保の方策等についての調査研究」の成果として、「やってみよう！登下校見守り活動ハンドブック」を作成し、公開した。

ハンドブックの概要（全日教連による抜粋、要約）

① 登下校の現状

登下校中の子供が被害に遭う交通事故や犯罪を減らすためには、地域全体で、登下校中の子供たちの見守り活動を行うことが効果的である。一方で、人口減少や少子高齢化の進行に伴い、見守り活動の担い手不足が懸念されている。



② ハンドブック作成の意図

- 一人一人が無理なく、できる範囲で子供たちや地域へ目を向け、小さな取組を積み重ねることによって、地域全体で子供たちの安全を守る環境が生まれる。
- 地域コミュニティの活性化も期待できる。



《 見守り活動例 》

○ 定点見守り

特に交通量の多い交差点や、見通しの悪い道、人通りの少ない道等に立って、子供が安全に通行できているか見守る。



○ 登下校への付き添い

特定の区間あるいは学校まで子供に付き添って見守る。通学路が広域にわたる場合には地区ごとに付き添いの引き継ぎをする例もある。



○ 点検・巡回

登下校中に限らず、通学路を点検・巡回しながら危険箇所を把握し、学校や市町村へ報告する。



○ ながら見守り

特に登下校時間帯に合わせて外に出て花に水やりをしたり、家の前で掃き掃除をしたりする等、時間と場所を工夫して、何かをしながら登下校中の子供たちを見守る。



※ 本資料についての詳細は、右のQRコードまたは下のURLから御確認いただけます。

https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/mext_01335.html



学校における働き方改革の推進の中で、登下校中の見守り活動については、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を活用し実施する体制が整備されてきている。一方で、その担い手である地域人材を確保していくことは、喫緊の課題であり、その解決の方策の一つとして、本ハンドブックが作成された。併せて、「地域における通学路等の安全確保に向けた取組事例集」も公開されている。

持続可能な学校指導・運営体制を整備するためには、地域との連携していくことが不可欠である。見守り活動についても、活動の目的や具体的取組等を示して、協力を依頼する必要がある。各地域での取組に、是非本ハンドブックを活用してほしい。